

# 1 ▶ 糖尿病療養指導士とは

## まとめ

- CDE は最適な療養指導を行うことができる糖尿病の臨床における生活指導のエキスパートである。
- CDE は日本糖尿病療養指導士 (CDEJ) と地域糖尿病療養指導士 (CDEL) がある。
- CDE 活動支援と交流の場として日本糖尿病療養指導学会が毎年開催されている。

## ① 糖尿病療養指導士とは

- 糖尿病患者の療養指導は糖尿病治療の柱である。
- 糖尿病療養指導士 (Certified Diabetes Educator: CDE) は糖尿病とその療養指導全般に関する正しい知識と技術を持ち、医師の指示のもとで個々の患者に最適な療養指導を行うことができる糖尿病の臨床における生活指導のエキスパートである<sup>1)</sup>。
- CDE は日本糖尿病学会、日本糖尿病教育・看護学会、日本病態栄養学会が母体となって設立した日本糖尿病療養指導士 (CDEJ) 認定機構が認定する日本糖尿病療養指導士 (CDEJ) と、各地域で設立・運営されている機構が認定する地域糖尿病療養指導士 (CDEL) がある。
- CDE はわが国では 1993 年に CDE 制度の検討が開始され、1996 年に北九州地区と富山県に日本で最初の CDEL 制度が、2000 年に CDEJ 認定機構が発足し、2001 年に CDEJ の第 1 回認定試験が行われた。

## ② CDEJ と CDEL

### 表 1

- CDEJ は糖尿病患者の療養指導に従事する医療スタッフの 5 職種 (看護師, 管理栄養士, 薬剤師, 臨床検査技師, 理学療法士) に与えられた資格であり、CDEJ 認定機構が講習会, 認定資格審査, 認定試験, 認定証交付を行う。受験資格は常勤または非常勤の日本糖尿病学会専門医 (非常勤の場合, 勤務は月 1 回以上) がいる施設に勤務していること, または日本糖尿病学会の会員で糖尿病の診療と療養指導に従事している常勤の医師がいることが条件となっている。CDEJ の資格保有者は 2019 年 3 月時点で 19,579 人である<sup>2)</sup>。
- CDEL は糖尿病療養指導の必要性を感じた地域の有志により自発的に立ち上げられた組織である。各

**表 1** CDEJ および CDEL の特徴

	日本糖尿病療養指導士 (CDEJ)	地域糖尿病療養指導士 (CDEL)
資格認定者 (人)	19,579 人	23,936 人
受験資格・認定試験	全国共通	資格・認定試験ともに地域独自で実施
職種	看護師, 管理栄養士, 薬剤師, 臨床検査技師, 理学療法士	(CDEJ の 5 職種以外で認定対象となる職種) 医師, 歯科医師, 准看護師, 保健師, 助産師, 栄養士, 歯科衛生士, 臨床心理士, 公認心理師, 運動療法士, 作業療法士, 放射線技師, 視能訓練士, 言語聴覚士, 介護福祉士, 健康運動指導士, ソーシャルワーカー, ケアマネージャー, 介護ヘルパー, 医療事務

地に設立された認定組織は、それぞれの地域の特性を生かした組織作りと認定制度を実施している。職種は CDEJ の 5 職種に限定されず、地域の必要性に応じて糖尿病療養指導に関わる職種が広く認定されている。CDEL の認定者は 2019 年 3 月時点で 23,936 人である<sup>3)</sup>。

**③ 糖尿病療養指導士に求められる資質と役割**

- 個々の患者の異なる病態と生活環境を理解・評価し、個々に目標を立て、療養指導を行う。その実施にあたっては動機付け面接やコーチングの手法を参考にし、生活に関するカウンセリングを取り入れる。
- 患者の自己管理能力と知識、理解度、遵守度などを評価し、療養指導により起こるすべての結果を自己の専門性を通して適切に記述し、記録する。
- 患者が現実を受容し、その条件のもとで自己管理を実行する心のケアを重視する。
- 療養指導の最終目標は患者の自己管理能力を引き出し、それを実行できるようにサポートしていくことである。そのためには患者と医療側の信頼関係を築くことが重要となる。

**④ 糖尿病療養指導士の研鑽と支援**

- CDE の資格取得は糖尿病療養指導のスタートラインであり、そこから自己の経験や体験のフィードバックを患者から学び、次に生かせるよう医療機関内や地域で話し合い、多職種でさまざまな意見を共有

することを積み重ねる研鑽が必要である。

- CDEJ 認定機構では、毎年「糖尿病療養指導ガイドブック」を発行し、新しい知識や情報を取り入れた認定更新者用の講習会やe-ラーニングを提供している。
- 日本糖尿病協会では「療養指導者向け雑誌DM Ensemble」, 「糖尿病カンパセーション・マップ」, 「糖尿病療養指導カードシステム」, 「療養指導者学習支援DVD」, 「e-ラーニング」など療養指導のためのツールを提供している。また、CDEの相互交流の機会を提供する枠組み「CDEネットワーク」を運用し、直接参加型のグループディスカッションが特徴である「日本糖尿病療養指導学術集会」を毎年開催している<sup>3)</sup>。

#### ■参考文献

- 1) 日本糖尿病療養指導士認定機構, 編・著. 糖尿病療養指導ガイドブック 2019. メディカルレビュー社; 2019.
- 2) 日本糖尿病療養指導士認定機構.  
<http://www.cdej.gr.jp/>
- 3) 日本糖尿病協会. <https://www.nittokyo.or.jp/>

〈安西慶三, 藤井純子〉

## 2 ▶ 医師から

### まとめ

- 医師は CDE に治療方針を示し、専門職である CDE と協働で患者に実行可能な療養指導を実施する。
- 病院医師は当該病棟だけでなくコンサルテーション時に CDE と協働で療養指導を実施し、診療所の医師は自施設だけでなく地域の CDE と実施する。
- 医師の重要な仕事は CDE が活動しやすい環境・体制作りと CDE の育成である。

### ① 医師からみた糖尿病療養指導士 (CDE)

- 療養指導は治療そのものであるという立場から、療養指導の業務は、医師の治療方針に沿って、日本の医療法に定められている各医療専門職種業務に沿って行われる。医師はすべての療養指導に精通しているべきであるが、実践的な指導は各専門職が最も患者に実行可能な指導を実施しており、専門職である医療スタッフ抜きでは糖尿病治療は成り立たず、医師は CDE との協働で療養指導を実施すべきである。
- 糖尿病療養指導チームメンバーのおもな役割を **表 1** に示す。この表は各職種の役割分担の一例であり、医師、あるいは医師の指示のもとで他の職種がその役割を分担する<sup>1)</sup>。
- 医師の重要な仕事は CDE が活動しやすい環境・体制作りと CDE の育成である。リーダーである医師が CDE による患者の行動変容や検査成績の改善に対して評価し、心配りをしながら支援をすることが必要である。

### ② 病院の医師

- 病院では一医療機関内で多職種のチームを形成することが可能であり、医師は病院全体の糖尿病患者を診る糖尿病横断診療チームおよび多職種で話し合うプラットフォームを構築する。
- 医師はチームが機能するための共通の診療ガイドを作成し、CDE は医師が立てた治療方針のもとで糖尿病療養支援を実施する。
- 病院における糖尿病医は当該病棟における糖尿病患者診療だけでなく、周術期や感染症、ステロイド治療などの患者のコンサルテーションの比重も大きい。一方、CDE は糖尿病担当から異動すると

**表 1 糖尿病療養指導チームのメンバーのおもな役割**

(糖尿病療養指導ガイドブック 2019. メディカルレビュー社:2019<sup>1)</sup>. p.8 より引用)

療養指導項目	医師	看護師 准看護師	管理栄養士 栄養士	薬剤師	臨床検査 技師	理学療法士
糖尿病の診断, 治療方針の決定	●					
療養における 自己管理の意義	○	○	○	○	○	○
療養上の課題/ 問題把握	●	●	○	○	○	○
食事療法の概要	○	○	○	○	○	○
栄養管理の意義	●	○	●			
献立・調理の 理論と実践	○		●			
薬物治療の概要	○	○	○	○	○	○
薬物の作用機序	●			●		
服薬指導	○	○		●		
自己注射指導	○	○		○		
糖尿病に関する 検査の概要	○	○	○	○	○	○
検査の意義	●				●	
血糖自己測定	○	○		○	○	
運動療法の概要	○	○	○	○	○	○
運動の種類と 効果	●					●
運動の実践方法 と評価	○	○				●
療養指導の計画と 立案	●	○	○	○	○	○
療養指導の実践と 評価	○	●	○	○	○	○

○一般的なもの ●特に専門知識を要するもの

1

糖尿病療養指導士のススメ

2

医師から

CDEとしての活動が困難であると考えるが、糖尿病患者は糖尿病以外の疾患で入院している場合も多く、担当部署のCDEはコンサルテーションを受けた医師と協働で診療を行うとともに、非糖尿病専門スタッフの教育を担当する【図1】。